様式第1号

令和7年度

多摩六都科学館 及び 多摩六都科学館駐車場

指定管理者業務事業計画書

多摩六都科学館 及び 多摩六都科学館駐車場
指定管理者

株式会社 乃村工藝社

目　次

ページ

令和7年度事業の基本方針 1

1章　事業計画 3

1. 科学館事業 （中核事業） 4

2. 地域拠点事業 18

3. 自主事業 20

2章　経営管理計画 22

1. マーケティング 23

2. 管理業務 （運営管理） 25

3. 開館日及び開館時間 29

4. 管理執行体制 31

5. 収支予算 34

令和７年度事業の基本方針

＜　はじめに　＞　令和7年度事業計画を策定するにあたって

令和6年度の事業計画は、第3次基本計画実施の初年度であり、10年後・20年後まで活動を持続可能とするためのあらゆる挑戦のスタート年であると位置づけ、業務の合理化、それに対する投資、新しい価値の創造に対応したグループの新設、高齢職員複数の退職に伴う組織全体の新陳代謝を行いました。

また実施内容の再構築や施策の棚卸、顧客満足度向上を目的とした新たな投資などを下記の通り単年度成果として多数残すことが出来ました。

・博物館実習の運営を合理化した上での受け入れ。人数を1.5倍に増員しての実施。
・カフェテリアへ新しい事業者を迎え入れ、子どもメニューの開発など、より顧客に寄り添ったサービスの提供による多摩六都科学館全体の魅力向上への寄与。
・圏域大学生を対象としたコンペの実施による圏域大学・大学生との新たな関係の構築及び大学生の多摩六都科学館の認知度の向上。
・圏域大学生の協力を得た、SNS活用方法の見直し。
・西武鉄道との共催イベントの実施や無償ポスター掲示などの協力関係の構築。
・多摩六都科学館ファン以外の利用の促進としてオリンピック金メダリストの研究者への転身後の講演の実施。
・駐車場の利用実態の詳細を知るための料金徴取システムのプログラム更新に投資した上での、駐車場利用者からの問い合わせの多かった割引サービス内容の充実への挑戦。
・大人のハーブ教室や大人のためのプラネタリウムなど大人対象イベントの充実に寄り添った、ミュージアムショップの部分改装。
・ミュージアムショップ利用者から希望の多かったデジタル(QRコード)決済の導入への投資による利用者の利便性の向上。
・圏域学童保育を対象としたオンライン教室配信の試行の実施。

令和7年度においては、これらの実績の継続発展を行うとともに、令和6年度に得た知見を基に更なる新しい挑戦を行い、顧客満足度の向上を担保した上で、ここ数年著である急激な物価上昇や人件費の高騰を賄えるような収益を指定管理料以外で向上させられるように取り組み、10年後・20年後まで多摩六都科学館の価値発信を可能とするための礎を築くことを念頭に事業計画を策定いたします。

1、基本方針

令和6年度スタートした多摩六都科学館第3次基本計画において、当館は『多摩六都科学館は、誰もが科学を楽しみ、自分たちの世界をもっと知りたいと思える多様な「学びの場」を地域の皆さんとともにつくりあげ、地域の文化振興に寄与することをめざします。』というミッションを掲げています。

さらに「多様な学びの場の創出」「多摩六都の交流拠点」「愛着の持てるロクトへ」「持続可能なしくみづくりを」の4つを将来像として掲げており、特に「持続可能なしくみづくりを」は第2次基本計画までにはない将来像となっていることから、この状況をしっかり認識し、科学館の関係者と協力し合いながら、課題解決に向けたしくみづくりや方策検討に取り組みます。また、以下の事項については多摩六都科学館組合と協働しながら、指定管理者として第3次基本計画の実施に向け最大限の努力を行います。

2、多摩六都科学館がめざしたい圏域の将来像

・ 圏域の多くの人々が、科学リテラシーを高め、地域の魅力や価値に愛着を感じ、より豊かな人生を過ごすことができる社会。
・ 圏域全体の魅力が高まり、圏域全体が潤う社会。

3、多摩六都科学館の将来像

3-1、科学館事業(中核事業)

＜多様な学びの場の創出＞

多摩六都科学館は、誰もが科学の楽しさをともに体験でき、科学リテラシーを高められる科学館をめざします。さらに、地域資源の価値発信にも努めていきます。

・ 利用者から支持の高い「体験とコミュニケーション」については、今後も科学館の特徴として事業を展開します。

・ 世代や国籍などに係わらず誰もが、「多様な学びの場」を楽しめるよう、これまで同様、ソーシャル・インクルージョンの観点から取り組みを継続実施します。
・「専門性とエンジョイメント」を両立させた事業や「圏域の地域資源の価値を発信」する活動についても、強化しながら継続的に実施します。
・様々な分野の協力者とともに、世界最大級かつ高機能の投映機を有するプラネタリウムをはじめとする科学館の資源を最大限に活かした活動に取り組みます。
・収集・保存・調査研究の体制整備や資料の保存環境などの基盤整備に努めます。

3-2、地域拠点事業

多摩六都科学館は、世代を超えて交流し、生涯学習や社会参画の場として活用できるよう、地域みんなに開かれた交流拠点をめざします。
・ 圏域の皆さんが、子どもから大人・親になるなど、世代や立場を変えつつも人生を通して、科学館を利用して活動できるような交流の場を提供していきます。
・次代を担う子どもたちだけでなく、幅広い年齢層が生涯学習の場として利用できるよう、各種学習プログラムやICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）を活用したデジタルコンテンツなどのソフトの充実に努めます。
・ボランティア活動（大人・ジュニア）は新規メンバーの加入に努めながら、圏域市民の社会参画の場となるよう、さらに強化しながら継続的に活動を展開します。
・ 市民とともに圏域の価値を発信していくイベントなどを実施し、圏域5市の交流拠点としての機能を高めていきます。
・圏域市民が科学館を気軽に誰もが利用できるよう、しくみや設備などの環境整備に努めます。

3-3、パブリック・リレーションズ

多摩六都科学館（愛称：ロクト／Rokuto）は、市民から愛着を持って「自分の科学館／地域の科学館」と認められる存在となり、利用者や地域の皆さんとのよりよい関係づくり（パブリック・リレーションズ）をめざします。
・圏域市民の知名度・認知度・利用度をさらに高めていけるよう、広報媒体の表現や手法の改善に努め、積極的に情報発信に取り組みます。
・多摩六都科学館の特徴的な活動内容や価値を国内外にも周知させていくことに努めます。
・市民調査や分析にも力を入れ、利用者や地域の皆さんのニーズを把握した上で活動を企画実施し、その効果の分析活動も実施します。
・ ロクトの支援者（ファン）を増やしていくためのしくみ・受け皿などを整備します。
・継続的にアクセス改善に努めます。

3-4、財政計画・体制整備

多摩六都科学館は、ソフト・ハード両面の改善が推進できる健全な財政計画や体制整備を実現し、持続可能な「地域の科学館」をめざします。
・ 長期的に安定的な財政運営が実現できるよう、科学館の関係者と協力し合いながら、課題解決に向けたしくみづくりや方策検討に取り組みます。
・ 外部資金の導入（寄附金、助成金、補助金の確保の他、賛助組織など）の他、財産の有効活用など創意工夫をしながら、財源確保策を検討・実現していきます。
・建築・設備の老朽化対策と長寿命化を図るとともに、常に魅力的な施設であるために展示やプラネタリウムなどの定期的なリニューアルが実現できるよう民間事業者の新たな活用方策も検討しながら、計画的な施設保全に取り組みます。
・地域連携・協働体制は、多摩六都科学館組合・指定管理者などそれぞれの立場で、ともにつくりあげていくしくみの強化を図ります。



１章　事業計画

理工系・自然史系両分野の展示物や実物標本を備えた常設展示室と、1億4000万個以上の恒星数を誇る投映機と世界最大級サイズのプラネタリウムドームという恵まれた条件を備えた総合科学館として、圏域5市広くは多摩エリアに住む人々に、様々な体験を通じて楽しみながら科学に親しみ、興味をより深められる場・機会をつくります。

利用者の様々な興味・年齢・利用形態に応じた多様なコンテンツを企画・開発してニーズに応えるとともに、科学館での体験が利用者の主体的な学びへとつながる生涯学習の流れをつくります。また、「連携」「交流」「成長」の理念に基づきながら、自然科学分野はもちろん、異分野とコラボレートした企画にも取り組みます。

（1）調査研究・収集保存活動（調査研究・資料収集業務）

地域の自然への理解を深めることや、身近な物質の性質を解明することを目的に、専門家や市民と連携した調査・研究活動を行います。

自然史の分野では必要な資料や標本を収集し、適切な処理により管理・保管を行います。市民や研究機関等からの寄贈または寄託の申し出のあった資料は調査・評価等を踏まえて受け入れを決め、整理・同定・登録作業を行います。受入資料は積極的に公開します。

専門知識を生かし、科学分野の質問や取材への対応、原稿執筆・監修等にも取り組みます。

＜ 調査・研究活動 ＞

名　称	テーマ・内容
自然史系　調査・研究	関東ローム、多摩川の礫等、地域の地質の調査・研究活動と、地学ニューズレター発行を行う。 科学館敷地内の昆虫や土壌動物の調査活動や、地域の環境団体の調査への協力、情報発信を行う。
理工系　調査・研究	一般財団法人　総合科学研究機構　中性子科学センター（CROSS）と連携したスライムの物性に関する研究活動を行う。

＜ 寄贈品標本・資料の整理・リスト作成 ＞

名　称	テーマ・内容
コレクションの登録・公開	新規標本および未整理の寄贈標本のリストを作成し、展示・貸し出し等活用可能な形に整理する。
寄贈申し入れへの対応	市民等からの標本寄贈の申し出への対応（同定、受け入れ先調整含む）。 寄贈内容の情報発信。

（2）展示活動（展示業務）

科学館の根幹を成す常設展示は、各展示室のテーマに沿った基礎的内容を押さえ、それに関連した展示と話題を発信し、さらに理解を深めるために利用者に合わせた体験活動や解説を適宜提供します。

企画展示では、展開価値の高いテーマを選び、合わせて地域や生活に関連した情報に結び付けることを意識して、幅広い層の興味を集める展示を行います。

あらゆる場面で誰もが安全に見学・体験できるよう努め、社会ニーズに応じて、他の博物館等との連携や、オンライン展示、やさしい日本語の活用など、多様なニーズや利用形態に柔軟に取り組みます。

① 常設展示

「チャレンジ」「からだ」「しくみ」「自然」「地球」の5部屋で構成された常設の展示室は、「Do Science！」をコンセプトとしています。ハンズオン展示物や実物標本等を通じて、利用者が身の回りにあるモノ・コトとその意味を科学の目で見つめ、日常の中の科学を発見し、自ら「科学する」楽しみを見いだすことをねらいとしています。

科学の入り口としての役割とともに、各展示室の解説スタッフや科学館ボランティアとの対話・交流や、体験性が高い展示物によって、実感をともなった理解や、より専門的な知見に触れる場を提供します。

展示室2・3・4・5の4部屋に設けたラボでは、教育スタッフとのコミュニケーションや体験をとおして科学事象を自ら考えるきっかけを作ります。 また「つながるスポット」では、企業や研究機関、地域団体・市民との連携をベースとした展示や関連情報などの提供を行い、地域の科学情報発信の場となります。この“つながり”をキーワードに、テーマ展示の更新や話題のトピックスの発信を行うとともに、スタッフによるインタープリテーション等、利用者にとって常に新鮮な印象を持てるような学びの場を提供します。

開館から30年を経て老朽化もみられる状況で、持続可能な科学館像を実現するために、既存の展示物は定期点検及び緊急点検を行い、特に故障により利用者が危険にさらされる可能性のある乗り物系の展示物は、予防保全を徹底し、常時利用者が安全に体験できるようにします。老朽化が認められる展示物は、現代的な内容を反映しているか精査するとともに、展示価値が高いものは、長く公開できるように、修繕を行います。

○常設展示室面積　　2,003.22平方メートル
○常設展示物数　　117点（その他、標本等一次資料約800点）

展示室共通の主な活動

名　称	テーマ・内容
常設展示室での コミュニケーション活動	開館時は展示室にスタッフが常駐し、利用者とのコミュニケーションを通じて科学への興味喚起や専門情報の提供を行う。 ・展示解説、展示物操作、安全管理 ・解説パネル、補助展示物・標本等の随時更新 ・企画展の成果物（新規展示や模型・映像コンテンツ等）の常設展示活用
ラボ	展示室2・3・4・5に体験性の高い活動が行える場を設け、利用者が科学への興味・理解をより深める機会をつくる。
つながるスポット★	展示室2・3・4・5に企業、研究機関、大学、地域団体・市民との連携した展示を行うエリアを設け、科学や地域の情報を発信する。

各展示室の主なテーマ・内容

名　称	テーマ・内容
チャレンジの部屋★	科学の基本的な法則や、科学的なものの見方を伝え、世界と向き合う土台をつくる。研究機関との連携により科学の実践について紹介する。 （テーマ：光の性質、運動の法則、物質の構造、宇宙への挑戦）
からだの部屋★	人間のからだに関する基本的な事項や、最新で科学的な知見の共有と体験の提供を行う。また、「あそび」を通じた生涯学習の交流の場となる。 （テーマ：からだのつくり、五感、人間と進化、人間とあそび）
しくみの部屋★	地域のものづくりの紹介により、もののしくみ（メカニズム）への興味を喚起する。圏域の都市基盤（インフラ）について知り、持続可能な社会への視点をつくる。 （テーマ：機械のしくみ/ギア/モーター/てこ/磁石/振動、社会のしくみ/エネルギー/電気/ガス/水道）
自然の部屋★	身近に見られる生きものを圏域の緑・水辺環境と関連付けて紹介し地域の再発見・再評価につなげる。 （テーマ：身近ないきもの、圏域の自然環境、生体・実物標本、市民コレクション）
地球の部屋★	多摩地域に特徴的な地質についてとりあげ、地域の地史を伝える。また豊富な実物標本も用いて、地質学・地球科学の基礎を学ぶことができる地域の地学学習の拠点となる。 （テーマ：地質学入門、多摩地域の地形・地質の特徴、鉱物・岩石・化石実物標本、市民コレクション）

★：地域拠点事業としても機能している活動・場

② 企画展示

旬の情報・トピックや世代・時代を超えて興味関心の高いテーマを特集する企画展を開催します。

企画展示においても、専門的な解説とともにインタラクティブな体験要素や「連携」「交流」「成長」といった視点を重視することで、テーマに興味を持った新規利用者の誘致に加え、繰り返し利用者（リピーター）の定着を図ります。

・企画展示の目標

各企画展ごとにテーマに沿った目標を設定するとともに、実施に合わせアンケート調査を行い満足度80%以上を目指します。ニーズの高さを測るため、来場者数や関連する催しの応募率などを調査します。

○イベントホール面積　約120平方メートル

名　称	期　間（仮）
春の企画展 「カレーのヒミツ展」	令和7年4月1日（火）～6日（日） ＊前年度より継続して開催 令和7年3月22日（土）～31日（月）
夏の企画展 「遊園地の科学（仮）」	令和7年7月19日（土）～8月31日（日）
冬の特別イベント 「ロクトロボットパーク2025」	令和7年12月25日（木）～令和8年1月12日（月） （令和7年12月28日（日）～令和8年1月3日（土）、8日（木）は休館、1月9日（金）は閉場）
春の企画展 「岩石（仮）」	令和8年3月24日（火）～3月31日（火） ※次年度に継続して開催 令和8年4月１日（水）～4月5日（日）（仮）

（3）天文映像活動（天文映像事業）

「実感を伴った理解」のためには、体験をすることが一番ですが、天文・宇宙の学習は実体験が困難な分野です。そこで、まずは星空や映像を見ながら専門的な解説を聞くことによって興味を持って覚えてもらうことを目指します。ただ見るのではなく、当館が誇る世界最大級のプラネタリウムドームという空間を活用し、東京では見ることができない満天の星や、まるで映像の中に入り込んだような体験など、ワクワクする非日常の映像体験をとおして、楽しみながら「実感を伴った学習活動」へつなげていくことを目標とします。

① プラネタリウム

光学式プラネタリウムCHIRONⅡ（ケイロンⅡ）を活用して、星空のおもしろさを伝え、本物の星空を眺めるきっかけとなることを目指します。日々の空の様子や多様な楽しみ方、次々に新しい発見がある天文・宇宙の最新情報などを伝える手法として、毎回、解説員が生解説で投影します。

また、科学館周辺の風景とともに圏域5市から見る「光害」の影響を受けた星空を投影し、街灯りがあっても見える星があること、しかし街灯りがあると星が見えづらいという現状を説明したうえで、不要な街灯りを減らすことによって光害の影響を受けない星空を取り戻せることを啓発していきます。

一方で、プラネタリウムに対して利用者が期待する内容は、星座の見つけ方から宇宙論に至るまで多岐にわたります。そこで、様々なニーズに応えるため、伝統的な星座解説に加え、定期的にテーマを変えて多様な話題を取り上げます。デジタル式プラネタリウムシステムによる天文学シミュレーションや探査機の3Dモデルなども駆使し、満足度の向上を目指します。

名　称	テーマ・内容	
一般 プラネタリウム	今夜の星空や季節の話題、さらに星・宇宙に関する多様なテーマも取り上げる生解説（全編生解説）。テーマは適宜更新し年間5本程度を予定。 また、星空解説の補助として月ごとの星図を記した印刷物「今月の星空」を作成・配布する。	
キッズ プラネタリウム	未就学児や小学校低学年とその家族向けのプログラム。 短編アニメーションなどと星空生解説を組み合わせて投影する。	
特別 プラネタリウム	0歳からの プラネタリウム	0歳から3歳くらいの乳幼児とその保護者が楽しむプログラム。
	大人向け プラネタリウム	科学に限らず文化やアートなど様々な視点から星空を語る特別なプログラム。
	他	“熟睡プラネタリウム”や“クリスマス特別プログラム”など、単発で特別なテーマのプログラムを実施。

② 大型映像

大型映像は、自然や宇宙の迫力ある映像とストーリーをドームスクリーンで鑑賞することで、強い感動とドーム特有の視覚体験を得ることができます。世界最大級の巨大ドームスクリーンと、令和6年1月に更新した高性能ビデオプロジェクターが映写する高精細デジタル映像からは、あたかも映像の中に入り込んだかのような感覚を覚えます。映像をただ「見る」のではなく「体感」することによって、映像とストーリーを楽しみながら「実感を伴った学習理解」になることを目指します。

（4）参加体験型学習活動（学習業務）

多種多様な体験性の高いプログラムを実施して、科学現象や自然の仕組みについて「実感を伴った理解」が得られる機会と場を提供します。

プログラムは、さまざまな年齢・興味に応じた内容を科学館の教育スタッフや科学館ボランティア、また専門家との連携によって実施し、主体的・対話的で深い学びの機会を作ります。

展示と並んで科学館での学びの中核をなす活動として、特に以下のポイントを重視して事業を展開します。

・利用者自身が「科学する」場をつくる

体験型の学習によって、体験者の中で知識や技能が関連付けられ、より深い理解や主体的な発見が期待できます。教育スタッフがファシリテーターとなり、参加対象者に応じた指導方法や学習形態を細かく組み立て、参加者が体験をとおして主体的に学びに向かう場をつくります。

・ ＜観察＞＜実験＞＜工作＞＜天文＞ 4つの学びのカテゴリー

科学学習室と各展示室のラボのプログラムは、 ＜観察＞ ＜実験＞＜工作＞＜天文＞の4つのカテゴリーで展開します。参加者が自身の興味関心に合わせて選択したプログラムで、対象を科学的に理解し、物事を捉えるための視点やスキルを身につけることができます。また入門的内容と発展的内容の2段階を設け、参加者は自身のレベルに合わせて選択できます。

・学びの多様性

分野・難易度に限らず、年齢層別の講座、やさしい日本語による解説など、多様な利用者層を想定したプログラムを展開し、一人ひとりの学びの可能性を引き出します。

① 参加体験型プログラム

参加者が機器の操作や工作等を直接体験できるプログラムを＜観察＞＜実験＞＜工作＞といった科学するための基本要素と、個人では体験しにくい＜天文＞の4ジャンルで展開します。それぞれ入門的内容と発展的内容を設けることで学びの多様性を実現し、子どもから大人まで一人ひとりの学びの可能性を引き出します。また、他の教科や他分野とまたがったプログラムにも取り組み、異なる視点から科学を見つめるきっかけを設けます。

誰もが安心して参加・体験できるよう、フィールドワークの事前調査含め、使用機器や設備・環境の安全管理を徹底します。また、来館できない利用者に向けたオンラインのプログラムなど、多様な利用形態に対して柔軟に対応します。

・参加体験型プログラムの目標

＜観察＞＜実験＞＜工作＞を合わせた入門的内容は50日程度実施し、発展的内容は25日程度実施します。実施に合わせアンケート調査を行い満足度80%以上を目指します。

＜ 観察 ＞

名　称	テーマ・内容・手法
入門的内容	顕微鏡をのぞく、身近な石や生きものをじっくり見る、といった体験から、自然界にあるものへの興味を持ち、観察の視点を得る。
発展的内容	生物・地学分野の観察や標本作製に必要な基本技術の習得や、自然を読み解く力・観察眼を養う教室を実施する。
自然観察会／ 野外観察会★	専門家から指導を受けながら、動植物の観察や岩石・鉱物の採集、地形・地質の観察を行い本物に触れて理解する。

＜ 実験 ＞

名　称	テーマ・内容・手法
入門的内容	簡単な科学実験により観察・考察する過程を体験し、身近な科学現象について知り、科学の面白さに触れる。
発展的内容	実験をとおして科学的な視点や技術を身に着け、テーマを掘り下げて考える。

＜ 工作 ＞

名　称	テーマ・内容・手法
入門的内容	簡単な科学おもちゃやネイチャークラフトなどの工作をすることで、ものづくりの楽しさ、科学・自然の面白さに触れる。身近な道具や工具の正しい使い方を学ぶ機会を提供する。
発展的内容	ものづくりに取り組むことで、機械などのしくみやつくりを知り、創意工夫する楽しさを知る。

＜ 天文 ＞

名　称	テーマ・内容・手法
天体観望会★	時節の見ごろの星座や天体を望遠鏡や双眼鏡を用いて実際に屋外で観察し、宇宙への興味を深める。 月に一度程度で開催予定（年間5回の圏域優先を含む）。

★：地域拠点事業としても機能している活動・場

② 講座・講演会

主に中学生から大人を対象とし、市民に向けて科学、工学、数学、複合分野など幅広いジャンルで科学館の教育スタッフや外部から招いた専門家による話題提供を行います。市民が基礎科学や最新の話題などに触れ、仲間と交流できる機会を設け、生涯学習の場としての多摩六都科学館の価値向上を進めます。

・講座・講演会の目標

年間12回程度実施します。実施に合わせアンケート調査を行い満足度80％以上を目指します。

③ 長期的な学習支援・人材育成

科学館の活動を通じてより深く科学に興味を持ち、発展的な学習を求める児童・生徒や、生涯学習として研究・調査等の活動を進めたいと思う市民に対し、学習機会や活動スペース及び資料を提供して、その学びを支援します。

また、主に近隣市民に学びの場を提供することにより、見知らぬ市民同士が科学という共通の文化を通して、新たな住民ネットワークを形づくるきっかけを作ります。

今後、利用者の動向を見て、他の分野での展開も検討します。

名　称	テーマ・内容
天文クラブ	天文学について掘り下げて学びつつ、屋外で本物の星空を見ることにより、青少年の天文に関する自発的な学習を支援する。
ミクロ・ラボ	科学館の顕微鏡を使って自由に観察ができる場を月1回の頻度で設け、年齢問わず科学館利用者の自発的な学びの機会を提供する。

（5）学校団体を対象とした学習支援活動（学校連携・支援）

科学館の持つ専門性やプログラム、装置や標本等のコンテンツを生かして、学校では実施の難しい要素をもつ授業の補完となるプログラムを提供します。また児童・生徒の学習だけでなく、研修の開催や教材貸し出し等、指導者の支援となる事業も実施します。

① 学習投影

教材だけでは実感するのが難しい、天文分野の学習を補完する事業を実施します。小中学校の校外学習として重視されてきた天文の学習投影では、プラネタリウムのデジタルハイブリッドの特性を活かして、興味を持ちやすい内容で、よりわかりやすく行います。基本的には学習指導要領に則して投影しますが、学校の実情に合わせて柔軟できめ細かい対応を取っていきます。また、事前学習や学習投影観覧後の振り返りに活用できるような資料の提供も行うと同時に、学習効果の把握や内容の改善を図るため、引率者へのアンケート調査を行い、結果を今後の学習投影に反映していきます。

名　称	テーマ・内容
学習投影番組1	小学4年生向け学習投影（生解説） 星の動き、夏と冬の星座、月の動き、月の形、月に関する発展学習
学習投影番組2	小学6年生向け学習投影（生解説） 今夜の星空（星座）解説、月の満ち欠けのしくみ、太陽系惑星に関する発展学習
学習投影番組3	小学4年生、6年生以外（中学校・高等学校含む）の団体用投影 教員・学校の要望により投影内容をカスタマイズして実施する （中学校・高等学校には今夜の星空解説と大型映像ORIGINを推奨）
幼児団体 投影番組	幼児団体向けに今夜の星空の生解説とオリジナルオート番組を投影
団体用 英語投影番組	四季の星座解説（英語録音オート解説）＋上映権を保有している英語音声のある大型映像など
プラネタリウム 学習のしおり	小学4年生向け学習投影を利用する学校向けのプラネタリム学習のしおりの提供

② 学習プログラム

圏域5市の小学校の科学館利用時に児童・生徒がより「実感を伴う理解」ができるよう、体験性の高い学習プログラムを提供します。予約制学習プログラムでは、学校内の理科室では用意できない道具・スペースを使った発展的内容の実験・観察等を実施していきます。

名　称	テーマ・内容
予約制 学習プログラム★	体験性の高い予約制の実験・観察プログラムを提供する。 A:【実験】電気の働きについて考えよう B:【実験】プログラミングを体験しよう C:【展示解説】地域の自然に目を向けよう D:【実験ショー】空気の性質をたしかめよう E:【実験】燃料電池って何だろう（東京ガス㈱）
予約不要 ラボプログラム	常設展示室の各ラボで、自由参加形式の実験・観察プログラムを提供する。 しくみラボ 「わくわく実験TIME」 しぜん・ちきゅうラボ 「観察ひろば」

★：地域拠点事業としても機能している活動・場

③ 展示学習支援

児童・生徒の常設展示室見学がより有意義なものになるよう、ワークシート等の支援ツールを提供するほか、展示室に教育スタッフを配置し、学校の校外学習の支援および展示見学の価値を広めます。

名　称	テーマ・内容
見学支援ツール	展示ワークシート、展示室見どころマップ等のツールを提供する。

④学校における学習の支援★

科学館ならではのコンテンツを圏域5市の小中学校に提供し、地域の理科学習を支援します。

科学館で行っている学習講座の受講が難しい学校や学年には、アウトリーチやオンラインコンテンツの提供等で対応し、地域の学力向上に貢献します。また、学校単位でそろえることが困難な地学標本や生物資料の貸し出し／提供を行い、指導者を支援するとともに授業の内容向上に貢献します。

名　称	テーマ・内容
児童・生徒への アウトリーチ	内容は学校のリクエストに応じて都度対応。
オンラインコンテンツの提供	小中学校のオンラインを含む授業に対応するコンテンツを提供する。 また学校に対し既存コンテンツの周知を行う。
資料提供・貸し出し	多摩川の小石の学習キット貸し出しや、プランクトンのサンプル提供等による、学習支援を行う。

★：地域拠点事業としても機能している活動・場

（6）人材育成・研修活動

科学館の持つ専門性やプログラム、装置や標本等のコンテンツを活かして、人材育成のための研修の開催や指導者の支援、キャリア教育となる事業を実施し、地域の「頼れる施設」となることを目指します。

事業実施の際は共催・協力機関と連携しながら、高い学習効果が得られる実施方法を検討します。

① 教員研修★

指導者養成の専門機関と連携して教員向けの研修会を開催し、地域の指導者支援へ貢献します。また、地域の指導者同士の学習会等の開催にも協力し、地域の理科教育力向上や指導者のネットワークづくりを支援します。

名　称	テーマ・内容
夏季教員セミナー	東京学芸大学理科教員高度支援センターと連携し、主に圏域5市の小中学校の教員を対象に理科授業指導力向上のための講座を開催。
教員の学習会等の支援	各市小中学校の理科部会の研修会や自主勉強会に対し、コンテンツや場の提供を行う。 随時対応
教員の社会体験研修等の受け入れ	教員に課された社会体験研修や資質向上研修に協力する。

② キャリア教育（その他研修等受け入れ等）★

地域の公共施設として、また科学の専門施設として、キャリア教育の一環となる実習等を受け入れ、次の世代を担う人づくりにも貢献します。

名　称	テーマ・内容
職場体験	中学生のキャリア教育として、圏域5市の学校と連携して実施する。
博物館実習	博物館学課程を学び、学芸員を目指す大学生を対象に、館務の実践的研修を行う。
博物館見学実習	授業の一環として、科学館見学の受け入れや講義を行う。
大学等への講師派遣	学芸員課程の講義へスタッフを講師として派遣する。
総合的な学習の時間 インターンシップ	高校生・大学生の職業体験機会として、大学と連携して希望者を受け入れる。

★：地域拠点事業としても機能している活動・場

（7）研究機関・関連団体との連携活動

① 研究機関等と連携した講演会等の実施

大学や研究機関で行われている最先端の研究や基礎科学の普及を発信する場として、幅広い分野の専門家を迎え、科学に対する知見をより深める講演会や専門家との交流の場となるサイエンスカフェ等を適宜開催します。

特に当館が協力協定を結んでいる研究機関との連携においては、先方の社会連携ニーズも汲み取りながら行っていきます。

・研究機関等との連携した講演会等の実施の目標

実施に合わせアンケート調査を行い満足度80％以上を目指します。

② 関連団体等との連携・交流

他の科学館・博物館や各種関連団体と連携することにより、博物館事業における共通課題や解決案を共有し、お互いにとって良好な協力関係を築いていきます。科学の普及に関する協力依頼があった場合、協議の上、貸し出し等を行います。

2. 地域拠点事業

多摩六都科学館の科学館事業と地域拠点事業は一体的なものであり、科学館事業のさまざまな場面に地域拠点的な要素が含まれています。当館は多摩六都圏域の生涯学習拠点として、広範囲な文化の領域とも交わった「多様な学びの場」を創造し、科学を通じての地域の魅力発信や課題解決に貢献することを目指します。

＜ 中核事業と地域拠点事業　関連図／マトリックス ＞

		地域拠点事業 ※ボランティア会との協働は全ての項目に関連
科学館事業（中核事業）	(1)調査研究・収集保存活動	・市民からの寄贈標本の整理 ・明治薬科大学の調査研究への協力
	(2)展示活動	・常設展、企画展における企業等との連携 ・東京の自然史、相澤ロボットなど地域資源の価値発信 ・圏域図書館と連携した科学の本の展示活動
	(3)天文映像活動	・協定連携先・圏域施設との連携 ・協力事業の企画実施、コンテンツ提供など
	(4)参加体験型学習活動	・落合川などにおける自然観察会実施 ・多摩北部広域子ども体験塾など
	(5)学校団体を対象とした学習支援活動	・圏域の小学校を対象とした学習プログラムの実施 ・授業のアウトリーチ
	(6)人材育成・研修活動	・東京学芸大学と共催する教員セミナー実施 ・圏域の小中学校理科部会の研修協力 ・キャリア教育の一環となる実習等の支援
	(7)研究機関・関連団体との連携活動	・東大生態調和農学機構・市民と三者で連携した事業の実施 ・地域の市民や構成市と協力したソーシャルインクルージョンの視点に基づいた取り組み
多摩六都科学館運営連絡協議会		・令和7年度テーマ 「持続可能な博物館経営」

（1）地域の交流拠点活動

多摩六都圏域を中心とした「地域の科学館」として、世代を超えて交流し、生涯学習や社会参画の場として活用できるよう、地域の人々に開かれた拠点となることを目指します。

圏域5市の行政や学校、研究機関、企業、市民と連携し、地域の生涯学習拠点として様々な学びの機会の創出や、地域情報の発信を行い、地域とのつながりを築きます。また、ソーシャルインクルージョンの観点から、多様な背景を持つ人々が利用しやすい科学館の環境づくりに、圏域5市の行政や市民団体等と連携して取り組みます。

（2）多摩六都科学館ボランティア会との協働

当館は多様な「学びの場」をつくっていく利用者の中で最上位に位置づけられるパートナーとして、ボランティア会の活動の持続的な発展のために、同会との連携を深めます。また、ボランティア会のメンバーが主体的に活動できるよう、より自立的な関係をつくります。館スタッフとの協働により、それぞれの専門性を引き出していきます。

ジュニアボランティアがボランティア活動を通して、社会の一員としての役割や社会性を身に着けるサポートをします。

（3）多摩北部広域子ども体験塾

東京都市長会/東京都町村会の多摩・島しょ広域連携助成事業として、圏域5市で共同実施する「多摩北部広域子ども体験塾」に協力します。圏域5市の小中学生を対象に、多摩六都科学館ならではの参加・交流型プログラムを企画・運営し、高度で大規模な感動体験を提供します。

今年度は恐竜時代をテーマに、夏は研究者の仕事にふれる体験教室と恐竜の全身骨格や実物化石が展示されている博物館の見学、秋・冬季は”新種”を想定してオリジナル恐竜を創造し、世界最大級のプラネタリウムドームでの発表会を行います。

3．自主事業

科学館事業及び地域拠点事業の枠組みの他、実施することにより利用者の満足度を向上させるとともに、新たな顧客を呼び込むことを目的とした事業などを自主事業として実施します。実施の際には適切な感染症対策を行います。

（1） カフェテリアの運営

カフェテリア事業運営は再委託として、顧客満足度向上に寄与することを目指します。

① 概要

・営業日数 ： 290日
・営業時間 ： 11時～17時
事業プログラムに合わせて時間延長を図るなど、柔軟に対応します。

② メニュー

小さなお子様や食べ盛りのお子様、家族連れに配慮したメニューを中心に科学館にふさわしいカフェテリアとします。

③ 繁忙期対策

店内に限らず、休憩室、館庭でも食事を楽しめるよう運営を行います。
また、館庭にキッチンカー等を誘致し、利用者の分散を図ることで、利用者の満足度を担保します。
キッチンカーは圏域の事業者限定とし、指定管理者が管理します。

④ 感染症対策

店舗内入口に手指消毒を設置し、感染拡大防止に十分留意しながら運営します。

（２） ミュージアムショップの運営

常設展示や企画展示・イベントに合わせた商品を取り扱い、「サイエンスを学べるショップ」を展開します。
オリジナル商品、科学に関する商品、企画展関連商品、地域に関連した商品等を取り揃え、多摩六都科学館ミュージアムショップとしての充実を図ります。

① 概要

・営業日数 ： 290日
・営業時間 ： 平日 11時～17時　土／日／祝 9時30分～17時
春・夏・冬休み中の平日は、開館時間に準じます。
また、事業プログラムに合わせて時間延長を図るなど、柔軟に対応をします。

② 商品構成

科学館で学び体験したことを帰宅後にも思い出せるような、厳選した商品を取り揃えます。家庭でも楽しめる実験・工作の商品を中心に、図鑑や当館のスタッフが監修した書籍も増やしながら、常に新商品をリサーチし利用者のニーズに合った商品展開をします。
また、企画展やイベントに関連する商品を販売することでイベントを盛り上げます。

③ 圏域の事業者との連携

地域に根差したミュージアムショップとして、圏域事業者、圏域を中心に活動しているアーティストや作家などと連携を図り、圏域の特産品の販売を通して、地域の魅力発信に努めます。

（３） その他

飲料自動販売機の設置やイベントを実施し、滞在時間中の快適性の向上や通常とは異なる科学館の顧客の獲得を図ります。また、企業協力により、企業、科学館、市民にとってそれぞれメリットのある施策を検討します。



2章　経営管理計画

1. マーケティング

利用者中心の視点に基づいたマーケティングを実践します。利用者セグメントに合わせて、コンテンツ展開及び広報を行うことで、科学館と利用者とのより良い関係を継続的に構築し、高い満足度を達成するよう努めます。

（1）顧客開発

① 新規利用者の開拓

新たな利用者を増加させる施策として、未利用者を対象とした顧客開発を行います。

・圏域新小学1年生への「入学祝招待券」の配布
・平日の個人利用の促進につながる事業の取り組み
・大人、中学生・高校生、大学生など利用の少ない層を対象とした事業の検討
・ソーシャルインクルージョンの視点に基づく誰もが利用しやすい環境づくり

②リピート利用の促進

・年間フリーパス
加入日から1年間、入館無料となります。

	一般	圏域市民
大人	2080円	1560円
小人	840円	630円

③サポーターとの関係構築

・サポーター（団体会員・個人会員）
企業や団体、個人が地域貢献の一環として資金等の面において科学館の運営をサポートする制度です。
招待券、ウェブやドーム等での社名掲載（団体会員のみ）のほか、大型映像やプラネタリウム特別上映などの機会を設けます。
団体会員には月1回メールマガジンで状況を報告します。

	個人	団体
会費	1口 5千円	1口 11万円
特典	招待券 2枚/1口	招待券 10枚/1口
		記念品進呈
	特別上映	特別イベント
	ウェブ掲載 ※希望者のみ	ウェブ掲載
		メルマガ発信

④圏域市民の認知向上

圏域市民に対して特定日の利用料金減免や無料バスの運行といった施策を実施し、多摩六都科学館の認知度向上と未利用者の利用を促進します。

（2）市場調査

市場及び利用者調査

アンケートについては、アンケート結果の活用や有意の数値を採るための手段などの検討を行い、より効果的な収集手法を模索します。それにより得られた結果をスピーディーに運営に反映し、顧客満足度の更なる向上を目指します。

（3）広報

様々な媒体を複合的に活用し、科学館の認知度向上とブランディング、利用促進を図ります。マスメディア向けの広報にも注力し、戦略的な情報発信を行います。

① 紙媒体の活用

事　項	内　容	目　標
ロクトニュース	科学館の事業の全体的な広報を行う。	約19万部を年間6回、圏域5市および近隣市区の小学校を中心に配布する。科学館事業全般に関する周知を図る。
ポスター、チラシ	科学館の主要事業の集客のための広報をタイムリーに行う。	「大人向けプラネタリウム」、「おもいやり大型映像・プラネタリウム」は年間スケジュールを記載したもの、また、「講演会」等適宜作成しターゲットに届くように配布する。

② ウェブ媒体の活用

事　項	内　容	目　標
公式ウェブサイト	タイムリーにコンテンツを更新し、来館意欲のわくような、わかりやすい情報発信を行うとともに、利用者の利便性の向上を図る。	イベント告知や活動報告、科学館の自然紹介、天文や科学事象の解説など多様な内容とする。
SNS	Facebook、X(旧twitter)、Instagram等のソーシャルメディアを活用し、フォロワーとのコミュニケーションを図る。	フォロワー数を上げる施策を検討しつつ、より効果的な活用方法を模索する。

③ マスメディア等の活用

事　項	内　容	目　標
圏域5市広報紙	圏域5市の広報紙への記事掲載のために、科学館の最新情報を配信する。	圏域市民に対する広報媒体として、毎月2回、読者層に合わせたコンテンツを提供していく。
プレスリリース	テレビ局、新聞社、地元メディア等に、科学館の最新情報を配信する。	月に1～2回、催しに合わせて適宜プレスリリースを行い、取材と幅広い周知につなげる。
取材協力	科学館に対する取材に積極的に協力する。	メディアとの関係を良好に保ち、科学館の認知度向上を図る。
撮影協力	内容を審査のうえ、テレビ番組、CM、雑誌等の撮影に協力する。	

④ その他広告媒体の活用

事　項	内　容	目　標
宣伝広告	圏域5市の地域紙やメディア・大学などの教育機関に広告・宣伝を行い、認知度向上および利用者増加につなげる。	イベントに合わせ媒体を選択し効果を高める。
案内広告・標識	東京電力電柱と消火栓に案内広告を掲出する。自動車の主要進入経路にあたる場所等に、案内看板を設置する。	現状を継続する。

（1）チケット発券・コンシェルジュ業務

入館・観覧チケットの発券、利用料金等の授受のほか、目的や年齢層に沿ったプランの提供および利用相談に応じます。また、迷子や交通案内等、さまざまな相談において利用者に寄り添い、きめ細かく対応します。

団体利用の予約受付と管理、実地踏査での打ち合わせ、電話問い合わせ等の対応を行います。

利用者満足度の向上を最優先とし迅速で正確な対応と公平な態度を心がけます。

老朽化している発券システムの機器入れ替えを検討します。

（2）安全管理業務

安全管理を徹底し、利用者の安心・安全・快適な環境の維持に努めるとともに、災害発生時に適切に対応できる安全管理体制を構築します。

年2回、消防訓練を実施し、利用者およびスタッフの安全管理体制を確認します。

また、「防犯」「防災」「緊急時の対応」を柱として作成した危機管理マニュアルをスタッフ全員に徹底を図るとともに、「緊急対応ポケットメモ」を携帯させて更なる意識啓発を図ります。

（3）設備管理業務

利用者満足度向上のための快適かつ機能的な環境を、中長期的な視点も交えて継続的に提供するとともに、当施設の公共性を自覚し、その目的の達成を施設維持管理面で支援します。

施設及び物品を適切に管理するとともに、指定管理業務に関する仕様書区分に基づいて維持管理を行います。また省エネルギー、省電力、節水に取り組み、環境に配慮します。

感染症対策として、換気の強化、アルコール消毒薬の館内の配置、利用者への感染症対策の喚起などを行い、利用者やスタッフが安全かつ安心して過ごせる環境を整備します。

業務名称	業務内容		実施予定
清掃業務	ビル衛生管理法その他関係法令を遵守し、施設内の清掃業務を遂行し、良好な安全衛生の維持管理と建物の保持に努める。		
	日常清掃	随時館内全てを見回り、掃き掃除・水拭きを行い常時清潔を保つと共に、整理・整頓及びゴミ処理等を実施する。	毎日
	定期清掃	床面ワックス清掃	年5回
		カーペットクリーニング	年1回
		ガラス清掃	年2回
		窓枠サッシ	年1回
		天井・壁面	年2回
		照明器具・誘導灯・外灯・ブラインド	年1回
		屋上・倉庫・機械室・電気室	年2回
		排水溝	年1回
		空調吸い込み・吹き出し・汚水配管・換気扇清掃	年1回
		外壁清掃	年1回
		消耗品（ペーパー・石鹸・ゴミ袋等）補充	適宜

業務名称	業務内容		実施予定
環境衛生管理業務	ビル衛生管理法その他関係法令に基づき、測定及び検査等を行い、科学館の衛生的環境の確保並びに向上に努める。		
	空気環境等の測定		年6回
	飲料水の水質検査		年2回
	雑用水の水質検査		年6回
	残留塩素の測定		毎日1回
	受水槽等の清掃、点検	受水槽	年1回
		雑用水槽	年1回
		汚水槽	年3回
		雑排水槽	年3回
		雨水槽	2年に1回 （次回令和8年）
		湧水槽	2年に1回 （次回令和8年）
		枡清掃作業	年1回
	害虫の駆除		年2回
	害虫の生息調査		年12回
	害虫駆除レストラン厨房		年2回
警備・安全管理業務	巡回業務、緊急時の処置： 常時2名以上の警備員が常駐し、警備業法その他関係法令を遵守し、火災・盗難・不法行為・事故等の防止を図り、施設の秩序維持、来館者の安全管理に努める。		
廃棄物運搬処理業務	ごみの分別収集、粗大ごみの保管： 多摩六都科学館から排出されるごみ等の収集運搬処分を行い、衛生的な環境の維持を図る。		
	可燃物		週3回
	不燃物		週1回
	資源物		週2回
	粗大ごみ		都度
	産業廃棄物		年1回
附帯設備保守管理業務	エレベータ保守点検業務		年4回
	車椅子用リフトの保守・点検		年1回
	自動ドア保守点検業務		年3回
	機械警備業務		常時

業務名称	業務内容	実施予定
設備運転保守管理業務	通常運転、監視業務、設備保守点検業務： 必要な資格を持つ技術者が常駐し、設備の機能を常に良好な状態に保つとともに、事故の防止及び早期発見に努める。	
	電話交換機保守点検業務	年10回
	自家用電気工作物	年1回
	自家用発電機定期点検	年2回
	電気時計設備	年1回
	ITV設備点検	年1回
	消防設備	年2回
	スクリュー式冷凍機	年4回
	スクリュー式冷凍機安全弁	年1回
	アイスチラー点検	年1回
	冷却塔整備	年2回
	ガスヒートポンプ	年1回
	空調機点検	年2回
	各種空調機中性能フィルター交換及び廃棄処分	年1回
	第二種圧力容器整備	年1回
	雨水処理装置点検	年1回
	濾過装置保守点検	年1回
	中央監視装置点検	年1回
	霧発生装置	年1回
	防火対象物定期点検	年1回
	建築設備定期点検	年1回
	特殊建築物定期点検	3年に1回 （令和7年実施）
教育設備等保守管理業務	展示物： 科学館の常設展示室内展示物及び屋外展示物について、点検を行い故障等による稼動休止が生じないように保守管理を行う。	定期点検 年2回
	学習設備： 科学館の科学学習室等に配置されている科学学習室機材・設備の保守点検及びメンテナンスを行う。	機器により 年2回～ 3年に1回
	プラネタリウム及び大型映像装置： プラネタリウム及び大型映像装置の各関連機器が、常に良好な状態で利用できるよう保守点検及びメンテナンスを行う。	定期点検 年2回
	展示構造物及び展示室内の学習スペース、ドーム内、学習室その他の施設内装が、常に安全で良好な状態で利用できるよう保守点検及びメンテナンスを行う。	適時

業務名称	業務内容	実施予定
館庭樹木・植栽等管理業務	科学館館庭・駐車場及び雑木林の樹木・植栽等を管理し、枯木の倒壊や枯枝の落下等による事故等がないよう安全対策に努めるとともに、美観を配慮した維持管理を行う。また、夏季にかけては管理棟南面にグリーンカーテンを設置し館内温度の上昇の防止を行う。	
	館庭の草刈及び樹木の剪定	適時
	館庭花壇の整備	適時
	害虫駆除	適時

（4）駐車場の管理運営業務

駐車場の運用に関し、科学館周辺道路において、利用者の駐車車両の交通誘導等を円滑に行い、利用者及び近隣住民の安全確保に十分な配慮をするとともに、利用者の利便性と収益性をともに満足できる運営体制を構築します。

ゲート式駐車場システムにて車の出入りや料金の徴収を機械で行うとともに、両替やトラブル時に迅速に対応するため係員を常駐させます。

定常の管理は西東京市シルバー人材センタースタッフを中心に行い、混雑が予想される日には専門の誘導員を配置し、更なる安全を確保するとともに、科学館正面の道路運行に支障を来さないように努めます。

3. 開館日及び開館時間

令和7年度の休館日及び開館時間を以下のとおりとします。

＜ 令和7年度休館日 ＞

区　分	休　館　日
月曜日（36日） ・月曜日が祝日または振替休日および公立小・中学校の長期休み中は開館する場合がある。	4月　：　7日、14日、21日、28日 5月　：　12日、19日、26日 6月　：　2日、9日、16日、23日、30日 7月　：　7日、14日 9月　：　1日、8日、22日、29日 10月　：　6日、20日、27日 11月　：10日、17日 12月　：　1日、8日、15日、22日 1月　：　19日、26日 2月　：　2日、9日、16日 3月　：　2日、9日、16日、23日
月曜開館または祝日の振替（19日）	4月　：　15日（火）、16日（水）、17日（木）、18日（金） 5月　：　7日（水）、8日（木）、9日（金） 9月　：　2日（火）、3日（水）、16日（火） 10月　：　10日（金）、14日（火） 11月　：　4日（火）、25日（火） 1月　：　8日（木）、13日（火）、30日（金） 2月　：　12日（木）、24日（火）
年末年始（7日） ・1月4日は開館する。	12月　：　28日（日）、29日（月）、30日（火）、31日（水） 1月　：　1日（木）、2日（金）、3日（土）
消防訓練日（2日）	4月　：　11日（金） 9月　：　4日（木）
プラネタリウムと展示 メンテナンス（11日）	4月　：　8日（火）、9日（水）、10日（木） 7月　：　15日（火）、16日（水） 10月　：　7日（火）、8日（水）、9日（木） 1月　：　27日（火）、28日（水）、29日（木）

総休館日数　75日
令和7年度開館日数　290日
（令和6年度開館日数　294日　）
※設置管理条例・規則で規定する休館日を必要に応じ、届出をもって変更（臨時休館、臨時開館など）する場合があります。

＜ 令和7年度開館時間 ＞

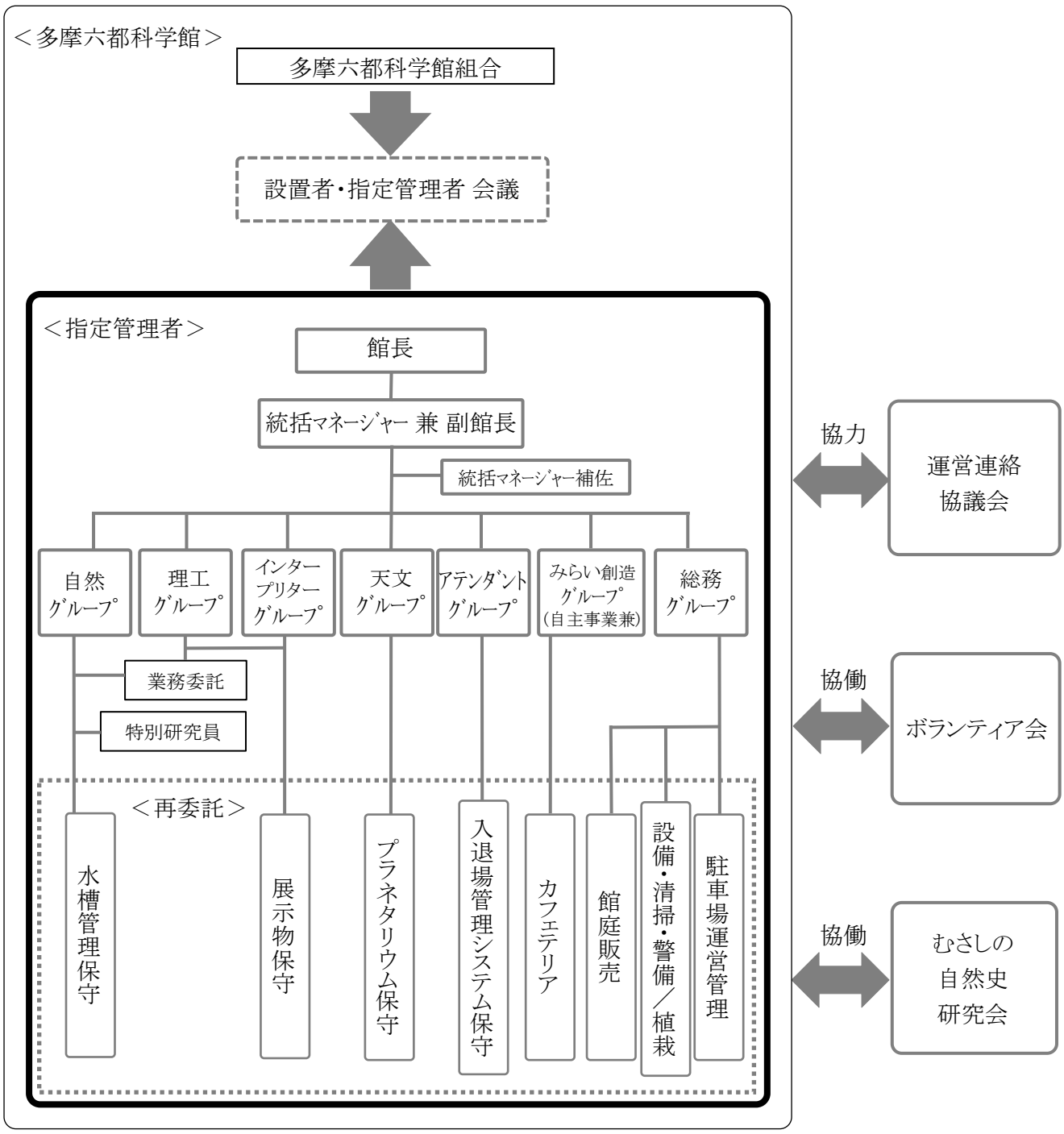
区　分	利用時間	時間延長等
科学館	午前9時30分～午後5時	夜間イベントに合わせて施設を開館
駐車場	午前9時15分～午後5時15分	夜間イベントに合わせて利用時間を延長

※設置管理条例・規則に基づく利用時間のほかに、事業プログラムに合わせて時間延長を図るなど、柔軟に対応をします。

4. 管理執行体制

令和5年度の組織・人員体制は以下のとおりとします。

（1）令和7年度組織体制



（2）多摩六都科学館運営連絡協議会

設置者とともに運営連絡協議会を設置し、科学館の運営について協議を行うほか、事業計画について意見交換等を定期的に行います。

市民に開かれた科学館運営を目標とし、地域との綿密な連携・協力体制を築きます。

（3）令和7年度指定管理者人員表及び職務分掌

役　職		職務分掌
館長 1人		館の顔として館の渉外役を担う
統括マネージャー 兼 副館長 1人		館全体の管理運営を総括、多摩六都科学館組合との協議窓口
統括マネージャー補佐　1人		統括マネージャー補佐業務及び館全体の運営上の庶務
総務 グループ (8人)	ﾘｰﾀﾞｰ 1人	総務の責任者、業務委託管理、総合設備管理
	常勤　5人 (理工 兼務1人) 非常勤 2人	総務(人事・庶務・会計・財務・広報・文書管理・行事)を担う 事業計画・事業報告の取りまとめ、大学連携窓口、ボランティア対応、電話等の問合せ対応、事務所来客応対
みらい創造 グループ (ショップ兼) (5人)	ﾘｰﾀﾞｰ 1人	多摩六都科学館が持続可能となるための「新しい価値」を創造する
	常勤 4人	多摩六都科学館が10年・20年先まで持続可能となることを目的とした「新しい価値」を創造するための、調査・研究・検討・手続き・試行を担う さらに、可能な範囲で実施する 兼務としてミュージアムショップ、カフェテリア事業、子ども体験塾も担う
アテンダント グループ (10人)	ﾘｰﾀﾞｰ 1人	利用者接点の責任者
	ﾁｰﾌ 2人 常勤 4人 非常勤 3人	総合案内・チケット販売 団体予約管理 サイエンスエッグでの案内および安全管理
天文 グループ (8人)	ﾘｰﾀﾞｰ 1人	プラネタリウムプログラムを含めた天文に関わる事業の責任者、グループの業務運営の管理
	常勤　5人 非常勤 2人	宇宙・天文に係わる教育普及・展示企画・研究活動
インター プリター グループ (10人)	ﾘｰﾀﾞｰ 1人	展示業務・運営の管理および責任者
	常勤　4人 非常勤 5人	展示学習利用の促進 展示室の案内、解説、展示物メンテナンス補助
理工 グループ (7人)	ﾘｰﾀﾞｰ 1人	理工分野の総合管理
	常勤　5人 (総務 兼務1人) 業務委託 1人	理工分野に係わる教育普及・展示企画・研究活動 常設展示のメンテナンス、圏域各団体との地域連携活動
自然 グループ (8人)	ﾘｰﾀﾞｰ 1人	自然分野の総合管理
	常勤　3人 非常勤 2人 特別研究員 1人 業務委託 1人	生物・地学分野に係わる教育普及・展示企画・研究活動 常設展示のメンテナンス、圏域各団体との地域連携活動

※　上記以外に長期アルバイトがいます。また、繁忙期には短期アルバイトが従事します。

＜ スタッフ育成 ＞

科学館の円滑な運営や事業の充実のため、業務範囲に応じたスタッフ育成の研修会を充実させます。

名　称	テーマ・内容
運営研修	カスタマーハラスメント講習など、運営に必要とされる研修
館内勉強会	スタッフのためのスタッフによる勉強会の実施

様式第2号

収支予算書･収支予算見積書 （令和7年度）

1 管理運営業務

（ 収 入 ）　（単位 千円）

項 目	予 算 額	内 容 ・ 摘 要
① 指定管理料	277,295	
② 利用料金収入	132,595	134,485 入館観覧料
		21,045 駐車場利用料
		−22,935 組合還元金
③ その他の収入	22,640	講座参加費、ラリーカード、サポーター、ぐるっとパス精算金、補助金、協賛金、多摩北部広域子ども体験塾助成金、他
合 計	432,530	

（ 支 出 ）　（単位 千円）

項 目	予 算 額	内 容 ・ 摘 要
① 管理運営人件費	184,948	人件費、福利厚生費、通勤交通費
② 運営事務費	31,618	賠償責任保険、交通費、事務用品費、通信費、図書費、印刷費、他
③ 科学館事業費	51,308	常設展示、特別展示学習事業、天文･映像体験学習事業、講座型学習事業
④ 学習支援･育成事業費、連携･交流事業費	3,720	ボランティア事業、連携事業、圏域市民感謝デー･市民ウィーク
⑤ マーケティング事業費	15,639	営業･広報活動、広報費、印刷費、ホームページ運用維持管理
⑥ 施設維持管理に係る経費	67,271	維持管理業務委託、廃棄物処理業務、その他施設管理
⑦ 駐車場運営管理に係る経費	7,403	運営管理、警備誘導、整備、パーキングシステム経費、他
⑧ 光熱水費等	35,695	電気、上下水道、ガス、他
⑨ その他	0	感染症対策、他
⑩ 公租公課	13,301	印紙税、消費税
⑪ 一般管理費	21,627	本社経費
合 計	432,530	

2 自主事業

（ 収 入 ）

（単位 千円）

項 目		予 算 額	内 容 ・ 摘 要
ミュージアムショップ運営事業	店舗販売	41,354	グッズ販売・企画展関連商品販売
	トイカプセル	1,380	
カフェテリア運営事業	ロクトショクドウ	2,714	歩合
		1,356	管理料
	館庭販売	0	管理料
		0	ロイヤリティ
自動販売機運営事業		1,438	ロイヤリティ
その他事業		600	イベント、他
合 計		48,842	

（ 支 出 ）

項 目	予 算 額	内 容 ・ 摘 要
ミュージアムショップ運営事業	35,848	
	762	行政財産使用料
	6,900	人件費
	28,186	ショップ運営経費
カフェテリア運営事業	1,531	
ロクトショクドウ	1,492	行政財産使用料
館庭販売	39	行政財産使用料
自動販売機運営事業	110	行政財産使用料
イベント および その他事業	618	
	110	行政財産使用料
	22	イベント 延長業務、消耗品備品購入
	110	広報費等
	376	その他
合 計	38,107	

管理運営業務　収支予算明細

（単位：千円）

No	大項目	項　目	内　容	金　額
(A)	収入			432,530
		①指定管理料		277,295
		②利用料金収入		132,595
		入館観覧料等	年間フリーパス、前売券　含む	134,485
		駐車場利用料		21,045
		組合還元金		-22,935
		③ その他の収入		22,640
		講座参加費		2,396
		ラリーカード発行費		3,208
		サポーター		4,100
		ぐるっとパス共通チケット精算金		790
		補助金・協賛金、他		146
		助成金事業	多摩北部広域子ども体験塾、他	12,000

No	大項目	項　目	内　容	金　額
(B)	支出			432,530
1	管理運営人件費			184,948
		管理運営人件費（アルバイト含）		165,972
		福利厚生費（社会保険等）		13,740
		通勤交通費		5,236
2	運営事務費			31,618
		賠償責任保険料		200
		旅費交通費	日当・宿泊含む	2,568
		消耗品費	事務用品等	983
		印刷用消耗品費	コピー用紙、エコクリスタル、インク等	755
		印刷費・製本費	名刺・フリーパス・招待券・リマインド・学習利用の手引き等	550
		無線機		643
		通信費・運搬費・受信料	電話、光回線、ZOOM、宅配便、切手、はがき	8,764
		事務機器リース費・印刷費	リコー、リソグラフ、EPSON、NTTサーバー、東芝複合機	4,543
		館用車費用	リース、保険、点検・修理、他	334
		キャッシュレス決済手数料	三井住友、JCB、PASMO、ANA Digital Gate、他	1,496
		ユニフォーム		1,706
		団体負担金、運営連絡協議会		360
		図書費	書籍、新聞　他	260
		研修費	他館入館料、外部研修、講習・セミナー等参加費	1,138
		現金回収委託（アサヒセキュリティ）		1,320
		アサヒセキュリティ修繕費、消耗品	入金機、消耗品（ジャーナル、釣銭用カートリッジ）	330
		発券機運用費	リース、保守、PC、システム更新、消耗品（ロール紙、領収書、他）	3,074
		運営事務雑費	医薬品、衛生用品、求人広告、館庭・事務室備品　他	2,088
		会議交際費	慶弔費、慰労費、文化功労者・紫綬褒章受章者へ生花贈呈、祝電等	506
3	科学館事業費			51,308
		常設展示		11,136
		常設展示品・機材		2,060
		保守・修理	湧水水槽保守、昆虫標本保守、他保守、常設展示品の修理修繕等	6,081
		クイズラリー諸経費	ICカード、インクリボン、景品、プリンター、ペガロクロイヤリティ、他	2,995
		特別展示学習事業		7,524
		春の特別企画展（カレー）		550
		夏の特別企画展（ゆうえんち）		4,950
		秋の特別企画展（未開催）		0
		冬の特別企画展（ロボット）		1,474
		春の特別企画展（令和8年3月開始分　　岩石）		550
		ミニ企画展		0
		天文・映像体験学習事業		16,338
		ドーム映像コンテンツ番組		7,150
		保守・修理	保守、修理、座席清掃、音楽・映像使用料	8,770
		消耗品費	掲示用具、テープ、他	88
		備品費	プロジェクターHDMI変換機、メガホン、他	330
		講座型学習事業		16,310
		講座・教室・イベント機材		4,707
		委託料		3,892
		助成金事業	多摩北部広域子ども体験塾、他	7,700
		野外観察会保険料		11

No	大項目	項　目	内　容	金　額
4	**学習支援・育成事業費、連携・交流事業費**			**3,720**
		ボランティア事業		1,089
		ボランティアワークショップ費		500
		ボランティア運営費	交通費、謝金、研修費、ユニフォーム、活動表彰、備品	505
		ボランティア保険		84
		連携事業	サポーター事業、大学連携、教員支援	1,135
		圏域市民感謝デー・市民ウィーク	委託（各駅バス案内・交通誘導）、広報費、他	1,496
5	**マーケティング事業費**			15,639
		マーケットリサーチ諸経費（営業・広報活動費）		1,138
		広報費、印刷費		12,169
		ロクトニュース・ウェブサイト	デザイン、印刷、梱包、輸送	10,306
		チラシ・ポスター等	館案内、イベントチラシ、星空案内、地学ニュースレター	1,214
		固定広告（電柱・消火栓広告）		429
		新聞・雑誌・Web他		220
		新しい広報挑戦費	デザイン・印刷・経費など	1,980
		ホームページ運用・維持管理費（WEB管理・更新）		352
6	**施設維持管理に係る経費**			67,271
		維持管理業務委託費（再委託業務）		61,707
		廃棄物処理業務		110
		その他施設管理費	レンタル（AED・便座クリーナー・マット）、施設維持管理改善、修繕費	5,454
7	**駐車場運営管理業務に係る経費**			7,403
		駐車場運営管理業務		5,500
		駐車場警備誘導業務	感謝ウィーク、感謝デー、繁忙期	1,012
		消耗品（駐車券、ロール紙等）		385
		リース（保守・修繕 含む）		506
8	**光熱水費等**			35,695
		電気		31,680
		上下水道		3,080
		ガス		825
		その他	灯油・氷等臨時燃料、他	110
9	**その他**			0
		感染症対策		0
10	**租税公課　（非課税）**			13,301
		印紙税		12
		消費税	預り消費税−支払い消費税	13,289
11	**一般管理費　（非課税）**			21,627
		本社　スタッフ支援、給与計算、経理事務、PC利用料、他	収入の5%	21,627
	（A）収入合計－（B）支出合計			**0**